

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	美術		
英文授業科目名	A r t s		
開講年度	2004年度	開講年次	1, 2年次
開講学期	2, 4学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-人文・社会科学科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	古屋 祐子 (学内連絡教官 佐藤 賢一)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
日本の美術作品に関する基礎的な知識を習得すると共に、各時代の作品の鑑賞を通じて日本人の美に対する感覚や、今日まで継承されてきた伝統を捉えることを目的とする。

【前もって履修しておくべき科目】
「無し」

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
「無し」

【教科書等】
教科書は使用しない。それに代わるプリントや参考資料を毎時間配布する。 参考文献は初回の折に掲示する。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

日本の美術作品の特徴を、分野別に、原始から近世までの歴史の流れに沿って
みていく。 スライドを用いて作品の理解を進める。

(扱う分野) 土器・土偶・埴輪、寺院・神殿、仏像・神像、やまと絵・絵巻、
かな、甲冑と刀、水墨画、能面と能装束、茶器と茶室、城、
障壁画、琳派、浮世絵、民芸

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(評価方法) 出席状況(10%) レポート提出(20%) 期末試験の結果(70%)
により総合評価する

(評価基準) 出席状況：講義回数の半数以上出席のこと。
レポート：課題に従った内容となっていること。
期末試験：作品の造型上の特徴を説明できること。

【オフィスアワー：授業相談】

講義終了時から午後1時迄。

【学生へのメッセージ】

西洋化した生活を送る現代において、日本の、しかも近代以前の美術は本当に
遠い存在となってしまった。しかしそれらは、中国ではない、西洋でもない。日本の
物の捉え方や感じ方、何を善しとしたかという判断の基準などを考える契機を
我々に与えてくれる。

【その他】